

酒田港を取り巻く最近の情勢について

目 次

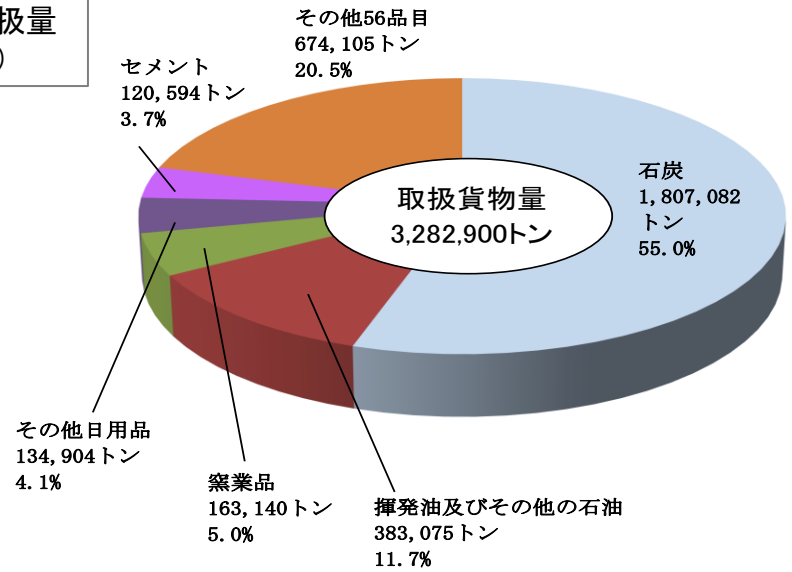
- 1 貨物取扱量の推移
- 2 酒田港国際ターミナルの機能強化
- 3 外航クルーズ船の状況
- 4 リサイクル企業の立地状況
- 5 酒田港港湾計画の改訂について
～ 酒田港中長期構想 ～

1 貨物取扱量の推移

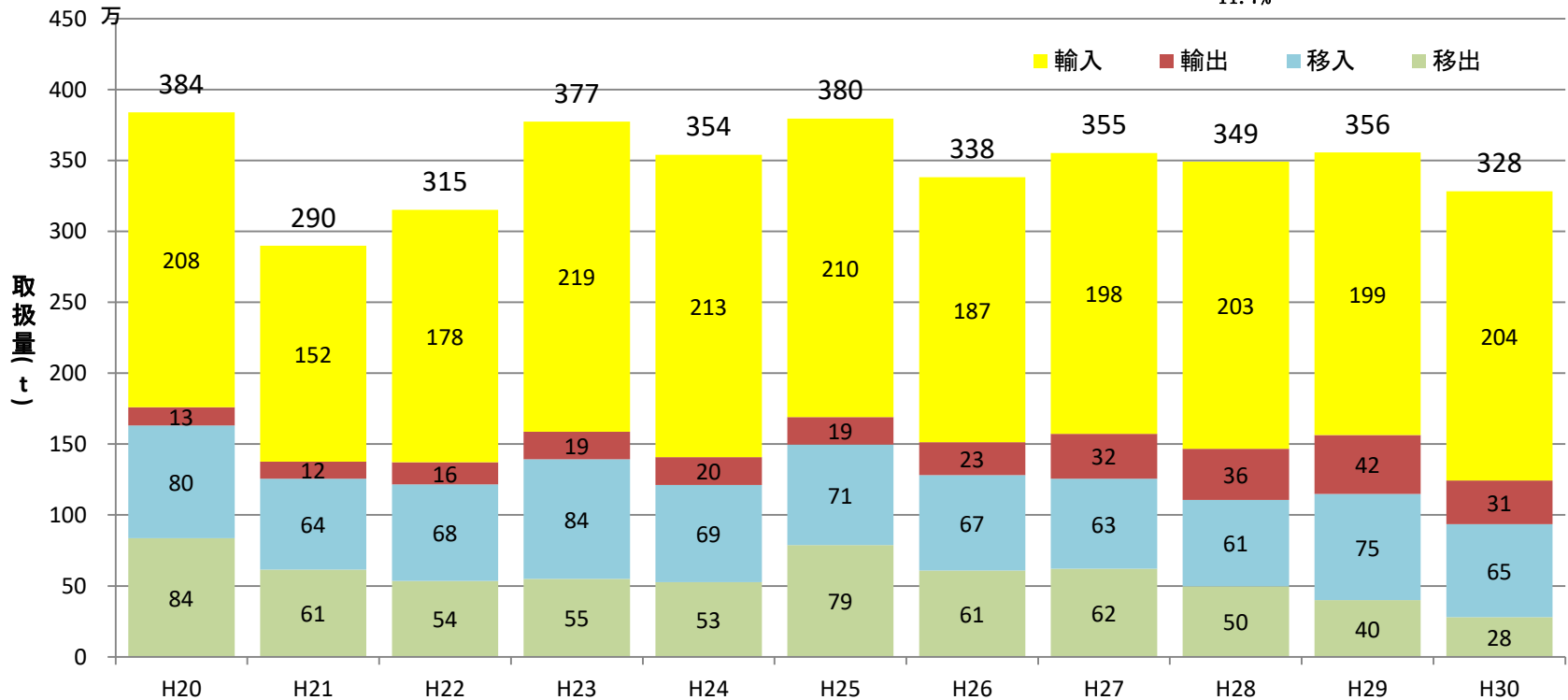
(1) 取扱全貨物量

- ・例年300～400万トで推移
- ・主要な品種：石炭、石油製品、窯業品（石炭灰）、石材、セメント

品種別取扱量 (H30)



取扱貨物量の推移

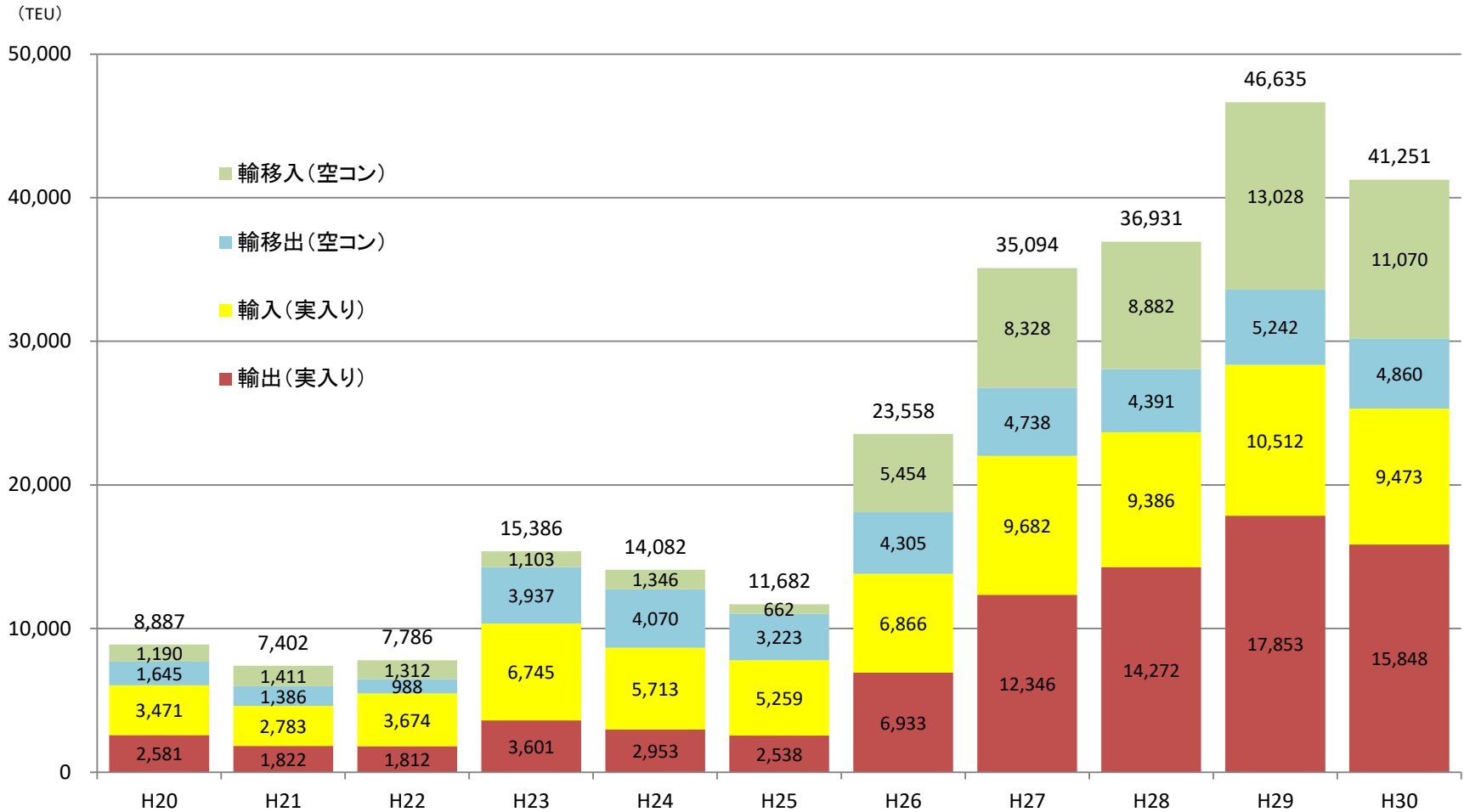


1 貨物取扱量の推移

(2) コンテナ貨物

・ H30 41,251TEU (過去2番目)
(25,321TEU 実入り)

・ 主要な品種
その他日用品 (中国向けオムツ等)

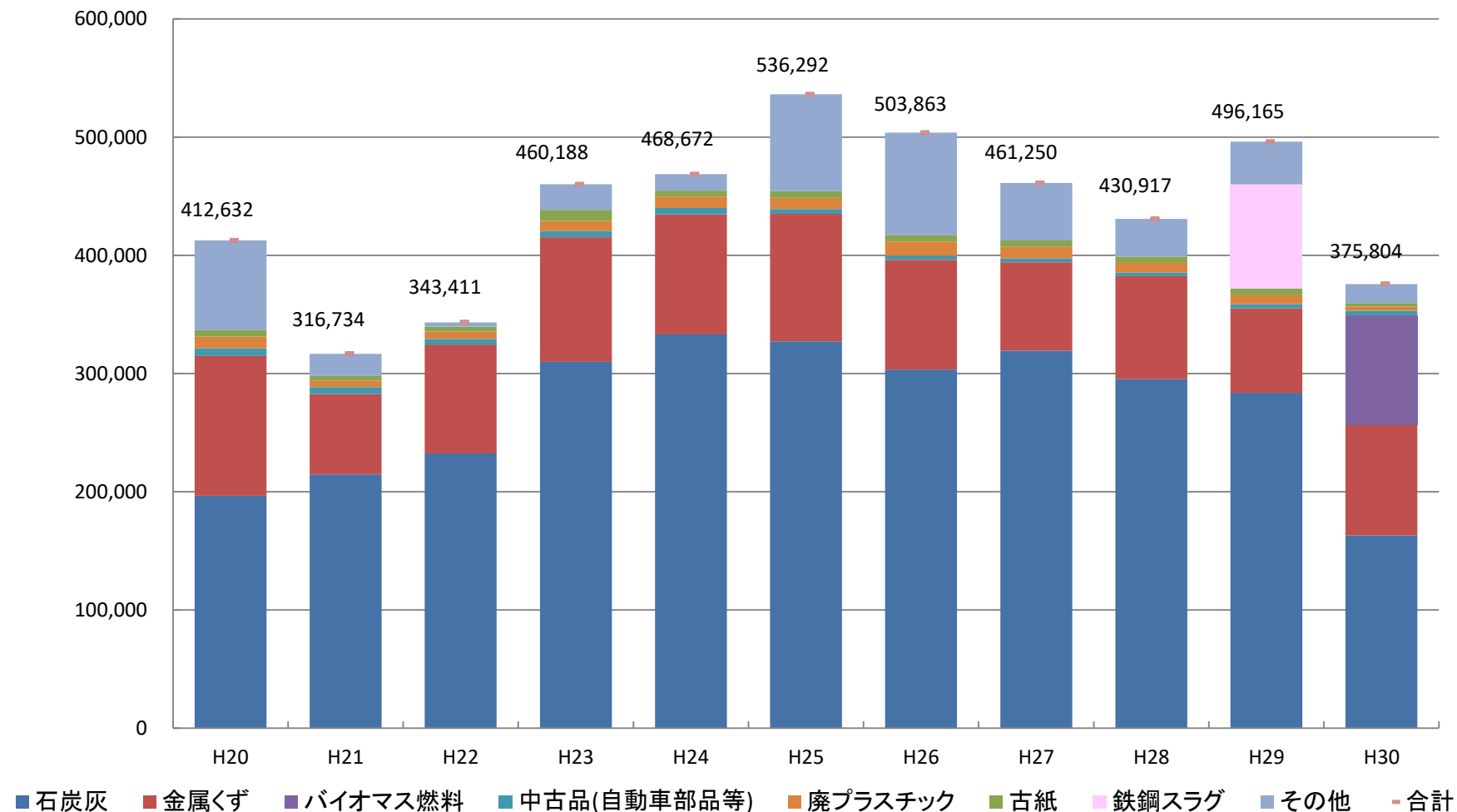


年次別コンテナ貨物量の累計値

(3) リサイクル貨物量

- ・ H15のリサイクルポータル指定後から順調に増加していたが、近年減少傾向
- ・ H30貨物量は、減少しているもののリサイクルポータル指定のH15に比べ1.9倍となっている
- ・ 主要な品種：石炭灰、鉄くず
- ・ H30よりバイオマス燃料が新たな品目として加わった

(単位:トン)



2 酒田港 国際ターミナル 機能強化

～ 飛躍するコンテナ貨物への対応 ～

① ヤードの拡張 (3ha)

⑤ 岸壁の延伸 【国交省事業】
ふ頭用地の造成【山形県】

② 舗装強化 (2ha)

③ 機能強化 (管理棟・ゲート)

④ 1号クレーン大型化更新

【関連】臨港道路拡幅

⑤ 岸壁の延伸 【国交省事業】、ふ頭用地の造成【山形県】

岸壁延伸150m
(うち112m供用済み)

↑国交省施工
↓山形県施工

3 外航クルーズ船の状況

(1) 寄港実績

年	月 日	船 名	船 舶 諸 元		
			総トン数	全 長	総乗客定員
H29	4. 1、9. 8	飛鳥Ⅱ	50,142 トン	240.96 m	872 人
	5. 3、7. 8、7. 10	にっぽん丸	22,472 トン	166.65 m	524 人
	8. 2	コスタ・ネオロマンチカ	55,769 トン	220.52 m	1,800 人
H30	7. 10、7. 12	にっぽん丸	22,472 トン	166.65 m	524 人
	7. 1、7. 17	ダイヤモンドプリンセス	115,906 トン	190.00 m	3,247 人
	8. 2	コスタ・ネオロマンチカ	55,769 トン	220.52 m	1,800 人
H31 R元	5. 11	ぱしふいっくびいなす	26,594 トン	183.40 m	620 人
	7. 8-9、7. 11	にっぽん丸	22,472 トン	166.65 m	524 人
	4. 23、6. 23、 8. 30、9. 30	ダイヤモンドプリンセス	115,906 トン	190.00 m	3,247 人
	9. 16	MSCスプレنديダ	137,936 トン	333.33 m	3,929 人

(2) 寄港時の状況



(2) 寄港時の状況



4 酒田港港湾計画の改訂について ～ 酒田港中長期構想 ～

酒田港港湾計画は、平成18年7月の改訂後、軽易な変更や一部変更は実施したものの、酒田港を取り巻く環境変化もあり、平成29年度より港湾改訂を見据えた中長期構想の策定に着手し、平成31年3月に策定しました。

基本理念

～北前酒田湊のKOEKI（交易&公益）好循環～

酒田港の将来像

酒田に根付いてきた公益の精神は、人を集め、物を動かし、交易を広げるという好循環を生み出し、山形の繁栄の礎となっており、現在も物流の拡大や観光客の増加などに繋がっている。酒田港はこの精神を引継ぎ将来にわたり好循環を持続し、対岸諸国さらにはASEAN諸国との交流拡大の取組みを通じて新たな好循環を生み出し、国内はもとより国際社会に貢献する『国際公益拠点港』を目指す。

「公益」の精神は地域の誇りとして根付いている

■ 酒田の特性

交易都市

- 最上川舟運によって、米、紅花の移出拠点として繁栄
- 北前船交易の寄港地として京文化が酒田へ移入
- 交易により「鎧屋」、「本間家」などの豪商が誕生

公益の精神

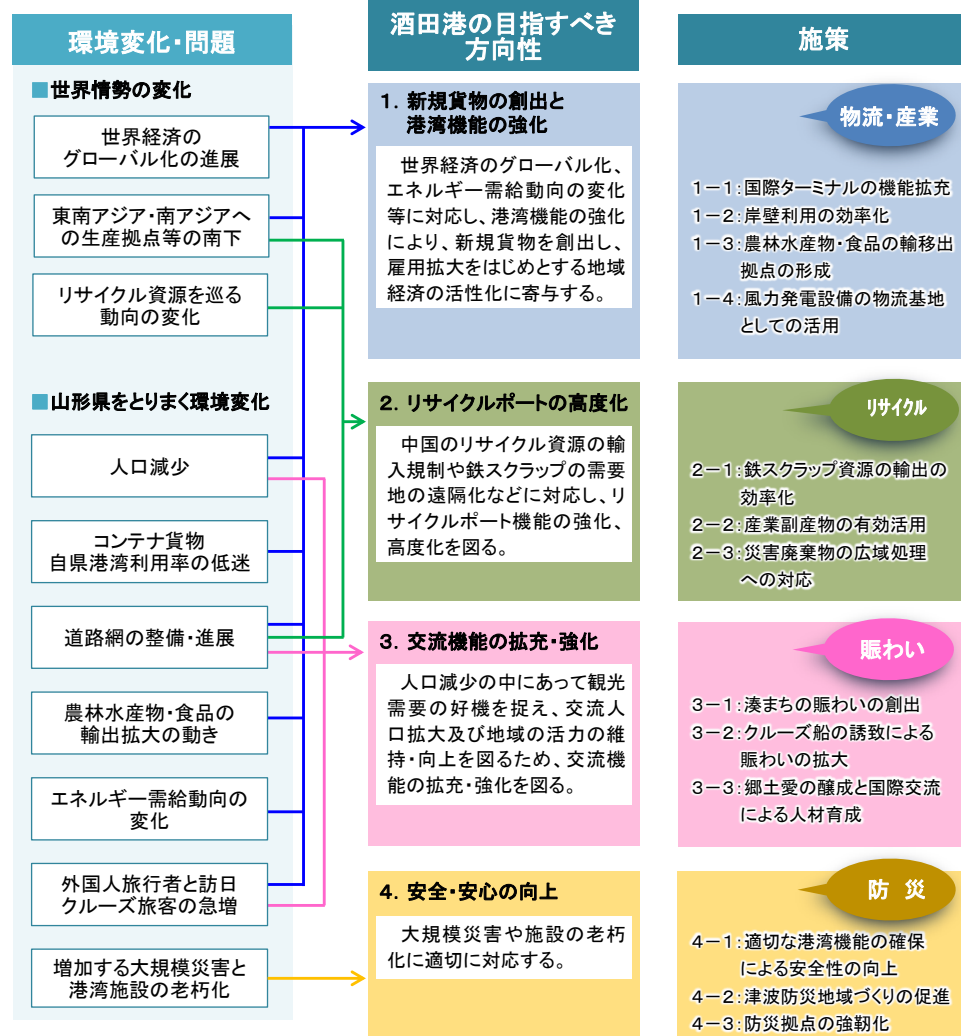
- 本間家をはじめとした豪商による公益投資（公共事業、財政再建支援、慈善事業、救済事業、育英事業等）
- 交易で得た利益を公益事業に抛出、地域に還元



最上川舟運
(最上川の主な河岸、船着場)
※河岸等の位置は「山形県史・要覧」より

基本理念

～北前酒田湊のKOEKI（交易&公益）好循環～



酒田港中長期構想 – 北前酒田湊のKOEKI (交易&公益) 好循環 –

酒田港の目指すべき方向性

方向性1 新規貨物の創出と港湾機能の強化

方向性2 リサイクルポートの高度化

方向性3 交流機能の拡充・強化

方向性4 安全・安心の向上

施策1-2 岸壁利用の効率化

ふ頭利用の見直しや新規岸壁の整備により、岸壁利用の効率化を図る。

施策1-1 国際ターミナルの機能拡充

将来の環境変化を見据えながら、物流関連施設の誘致や国際ターミナルの機能拡充を図る。

施策1-3 農林水産物・食品の輸移出拠点の形成

海上輸送に必要な施設整備やフェリー等の誘致により、山形県・近隣県の農林水産物・食品の輸移出の拠点化を目指す。



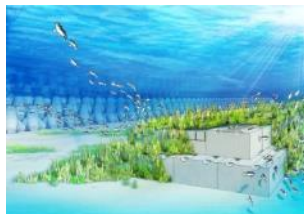
施策3-2 クルーズ船の誘致による賑わいの拡大

クルーズ船を誘致し、具内観光の振興と賑わいの拡大を図る。



施策2-2 産業副産物の有効活用

産業副産物等について、環境保全活動や新たな再資源化への取組みを促進する。



施策1-4 風力発電設備の物流拠点としての活用

部材の荷揚げ、組立て及びメンテナンスが可能な風力発電設備の物流基地の形成を目指す。



施策2-1 鉄スクラップ資源の輸出の効率化

日本海側リサイクルポート間で連携し、鉄スクラップの効率的な輸出を目指す。

施策2-3 災害廃棄物の広域処理への対応

リサイクルポートという特徴を活かし、災害廃棄物の広域処理の要請に対応できる港を目指す。

施策4-3 防災拠点の強靱化

耐震強化岸壁のさらなる整備、港湾BCPの強化により、災害時の輸送拠点を強靱化する。

施策3-1 湊まちの賑わいの創出

港周辺の観光資源・海洋資源の活用、漁業・産業観光の振興、クルーズ拠点の整備などにより、新たな賑わいを創出し、交流人口の拡大を図る。

施策3-3 郷土愛の醸成と国際交流による人材育成

郷土愛の醸成や国際交流により、海外への広い視野をもった地域の人材の育成を図る。



施策4-1 適切な港湾機能の確保による安全性の向上

防波堤の整備や港湾施設の維持管理により、荷役や船舶航行の安全性向上を図る。

施策4-2 津波防災地域づくりの促進

警戒避難体制の整備を促進し、津波に対する安全・安心の向上を図る。